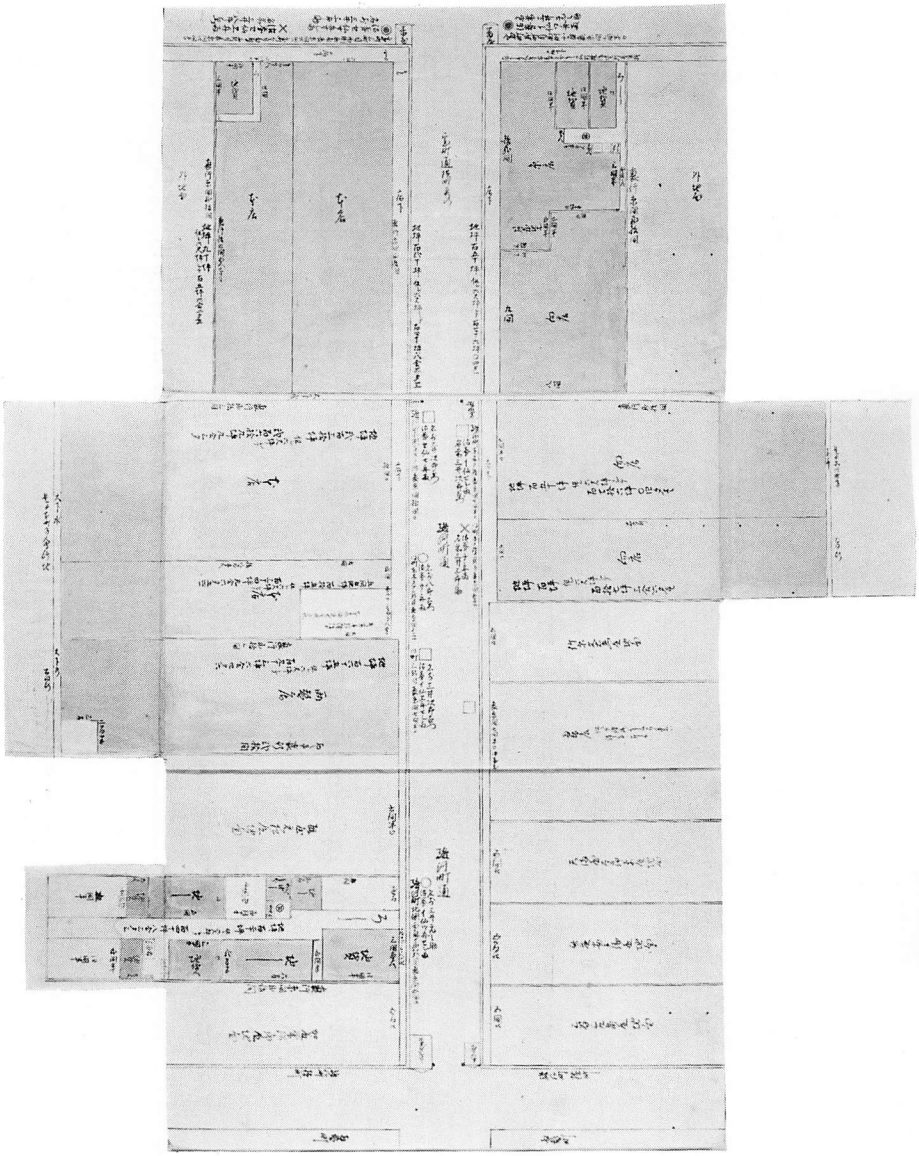

三井家の江戸駿河町・室町家屋敷絵図（文化四年）

口絵　三井家の江戸駿河町・室町家屋敷絵図（文化四年）

《江戸抱屋敷絵図》（三井文庫所蔵資料　追六九七）所収（袋綴　表紙原寸33・3×24・3糎）

駿河町の三井家の店は、天和三年に三井高利が呉服店（のち本店）を本町から移し、その西隣に両替店を併せ開いたのが始まりで、続いて綿店（のち向店）が設けられた。その後同町や隣接する室町二・三丁目の家屋敷を買足して店舗を広げていった。享保頃以降の江戸の店は、他には本町一丁目店（明和三年移転して芝口店となる）だけであるから、駿河町・室町は三井家の江戸における本拠地といってよい。現在、通りの北側（左方）に三井本館、南側（右方）に三越がある。なおこれら家屋敷の買足しの状況は、本号に紹介する大元方「家有帳」をみられたい。

この絵図の載っている《江戸抱屋敷絵図》は、表紙の題箋に表題がなく、また絵図以外の記事、日付もない。収められているのは、大元方持・京両替店持・江戸両替店持合計九七か所の家屋敷の絵図（平面図）である。地貸しの部分には黄色、堀川には水色の彩色をし、店貸し部分では一戸ごとの区画を明示し、井戸・芥溜・雪隠などの共用施設まで細かに記載してある。三井家の店は大元方から営業店への地貸しであるから黄色に塗ってある。この史料は文化三年三月の大火類焼後の普請関係資料の一つとして、京両替店手代伊東儀右衛門が江戸勤番中に作成させたものと推定されている。（今井）